

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
 在外研究
 2014 年度研究成果報告書

研究代表者	所属部局・職		氏 名	
	異文化コミュニケーション学部・教授		細井尚子 印	
研究テーマ	東アジア文化圏の大衆文化における近代—大衆娯楽市場における「少女歌劇」系芸態から—			
全研修期間	2014 年 8 月 10 日 ～ 2015 年 3 月 31 日 (230 日間)			
経 費	年度経費	SFR 申請額	所属学部からの補助額	SFR 助成額
	2013 年度	円	円	円
	2014 年度	2,160,000 円	580,000 円	1,580,000 円
主な滞在国 及び 研究機関名	国 名	研究機関名		
	台湾	国立台北芸術大学・戯劇学院戯劇系		
研究成果の概要 (図・グラフは使用しないこと)				
申請時の研究計画は以下の 3 点である： ① 台湾の「少女歌劇」系芸態の基礎資料作成・関係者インタビューに拠るオーラル・ヒストリーの構築 ② 国際学会組織としての大衆文化研究会の設立 ③ 東アジア文化圏大衆文化研究の情報・人的ネットワーク形成 上記の 3 項目に分けて、SFR 対象期間である 2014 年 8 月 10 日～2015 年 3 月 31 日の研究活動の状況と成果を報告する。申請者は対象期間終了後も約 5 か月間台湾に滞在して研究活動を持続するので、中間報告のものも含む。 ① 台湾の「少女歌劇」系芸態の基礎資料作成・関係者インタビューに拠るオーラル・ヒストリーの構築 台湾の「少女歌劇」系芸態は、台湾で形成された「歌仔戲」の世界から派生的に誕生するため、歌仔戲関連の資料収集も含めて行った。2015 年、台湾の代表的な演劇研究者による台湾演劇史関連著作が刊行され（林鶴宜『臺灣戲劇史増修版』臺大学出版中心 2015 年 2 月、徐亜湘『台灣劇史沉思』国家出版社 2015 年 2 月）、また現地の研究機関・研究者が個々にデータ化した資料が存在する（将来的にはそうした個々のデータのプラットフォーム作りを以下で報告する②③で行う計画もある）。こうした現地の研究蓄積を享受し、研究者間の情報交換も行った。2015 年 2 月に歌仔戲の故郷とされる宜蘭での調査を行い、実演者インタビュー、資料収集を、また歌仔戲以外の舞踊、現代劇ジャンルの観劇・資料収集も行い、台湾演劇文化の特性を「『胡撇仔』力の台湾」としてまとめた。この文脈から台湾の「少女歌劇」系芸態を分析することで、その独自性がより明確に把握できると思われる。以降は歌仔戲と「少女歌劇」系芸態の双方に関連する関係者、及び「少女歌劇」系芸態の関係者に対するインタビュー調査を増やす予定である。				

研究成果の概要 (つづき)**② 国際学会組織としての大衆文化研究会の設立**

当初の予定では、SFR 対象期間に設立可能と思われたが、台湾における国際学会設立の条件(2度の国際シンポジウム開催・2冊の論文集発行の実績、全土的な会員・及び会員数条件)の一部がクリアできていないこと、また、本学会の対象が広範すぎて、本来の構想である「鍛錬の場」という性質をもたすのは困難という判断により、国際学会の核となる部分を堅固にするため、台北芸術大学内で研究会的組織(「東亞戲劇教師社群」台北芸大研究費目の1つ)を作り、活動を開始した。東アジアの枠組で各自の研究蓄積を読み直す作業を行う。共通テーマを設定し、それを各自の専門・研究蓄積から分析して研究討論を行って東アジアの枠組でとらえ直す手法の具体例として、5月に沖縄で共同調査を行い、その成果を研究会で揉んで、この研究方法を実体化させる予定である。

①② SFR 対象期間は、①②を目的として、研究発表や講演などの形で出来る限り自己の研究成果等の報告を行った。研究者間のみならず、院生・学部生など若年層、一般の方々への発信の機会も得るようにした。また、台湾の大衆演劇において重要な時期である日本統治時代の研究方面において、台湾における研究蓄積は近年厚みを増し、基本資料も充実してきているが、日本から台湾に来た演劇・演劇人の研究面でやや薄い領域があり、その部分の補充、強化についても②及び院生などの若手研究者とともに取り組んでいく予定である。

③ 東アジア文化圏大衆文化研究の情報・人的ネットワーク形成

① 及び②の活動を進めることによって、台湾におけるネットワークは徐々に拡大している。情報のネットワーク化については、台北芸術大学にプラットホームを設ける方向で検討し、まず台湾の個々の研究機関・個人の研究者のデータベースのネットワーク構築を主として着手していく予定である。

キーワード (研究内容をよく表しているものを5項目で記入)

[東アジア] [近代] [大衆] [演劇] [文化]

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ① 雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ② 図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③ シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④ その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 「『胡撇仔』力の台湾」中野正昭編『ステージ・ショウの時代』(シリーズ近代日本演劇の記憶

と文化第3巻) 森話社 2015年5月刊行予定

「近代大衆演劇と伝統文化--以沖縄芝居為例--」『戲劇學刊』第22期, 北藝大戲劇學院, 2015年7月刊行予定

② 「日本少女歌劇之特性--以松竹歌劇為例--」『跨越時空的歌聲舞影--2014女性戲劇國際研討會專書』台南市: 國立成功大學藝術中心 2015年5月刊行予定**③ 『2014女性戲劇國際研討會』2014年11月14-16日、台南市、國立成功大學(主持人)****④ 「日本少女歌劇之特性--以松竹歌劇為例--」『2014女性戲劇國際研討會』國立成功大學藝術中心 2014年11月15日**

『2014女性戲劇國際研討會』系列講座「從『寶塚歌劇團』看日本戲劇近代化的發展」(11/14 台文講堂: 草野旦氏と共同発表)「寶塚歌劇團の百年回顧」等・「寶塚歌劇系列專業講座及工作坊」『臺北藝術大學戲劇學系分流計畫』2014年11月21-25日 臺北藝術大學・思劇場(学内一般公開型2回・学外共催1回・工作坊2回)

「以東亞洲少女歌劇系芸態来看近代」臺北藝術大學戲劇學院碩博研討會(基調講演) 11月30日、臺北藝術大學

※この(様式2)に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。